

特別企画

「船上談義」

若い世代の経験と絆に期待

乗船された皆様（来賓等の名前は順不同・敬称略）

《来賓》

富山県 商工労働部次長 柿沢 昌宏
 富山市 商工労働部長 大場 一成
 富山市 商工労働部次長 高嶋 善秀

《当所》

会 頭 高木 繁雄
 副会 頭 翠田 章男
 副会 頭 大津賀保信
 副会 頭 山田 岩男
 副会 頭 西岡 秀次
 専務理事 富田 光國
 専務理事・事務局長 西野 政行
 理事・中小企業支援部長 西野 政行

《青年部》

村家 幸伸 蓑輪 寿宏 大森 宏樹
 佐々木馨一 高橋 由将 中川 武秀
 長森 稔 上西 良樹 泉 純二
 梅澤 英央 加藤 功 尾島 寛信
 木村 英樹 佐々木忠義 政二 大蔵
 吉田 祐介 田中 七海 西 洋二
 渡邊 智美 白山 輝 田中比呂睦
 島野 文宏 高柳 良 田村 尚樹
 田嶋 哲士 伊藤 隆行 早坂 健司
 市田 耕一 大杉 拓也 竹島 悠平

《女性会》

会 長 近藤 裕世
 副会 長 荻田 洋子
 副会 長 市井 啓子
 副会 長 新村美恵子
 常任理事 花柳 松香

富山商工会議所青年部は、昨年は富山地方鉄道(株)の「レトロ電車」を使った夏の観光列車「ピア電」を会場として行った談義を、今年は装いを新たに富岩船舶(株)の運河クルーズ「富岩水上ライン」の55人乗りのソーラー船「fugan(ふがん)」を借り切って「船上談義」を6月8日に開催した。

当日は当所正副会頭4名、来賓の富山県・富山市から3名、青年部メンバー30名、当所女性会メンバー5名ほか計46名が「fugan」に乗船した。

船は富岩運河環水公園を出発し、昭和の土木構造物としては初めて国指定重要文化財に指定された中島開門を経由するルートを運行した。公園のシンボル天門橋や2017年にオープンした富山県美術館を眺めながら始まった約1時間40分の船旅は、船から望む景色や富山の幸を使った食事、ゆったりした運河の流れを楽しみつつ、当所正副会頭や来賓の方々と青年部会員が楽しい会話や活発な意見を交わし合い、親睦を深めるものとなった。



●普段は正副会頭とお話しをする機会が殆どない青年部メンバーにとって、この談義は貴重なチャンスとなりました。山田副会頭は、富山電気ビルの歴史、戦災時の被害の様子、戦後の天皇陛下御巡幸時の逸話など、興味深いお話をされました。



山田副会頭

この中島閘門での水位調整はまさに「水のエレベーター」ですね。以前、パナマ運河へ行って体験したが、それはダイナミックでした。



青年部・田嶋氏

副会頭が仰るように、様々な場所へ行き、実際に体験することが重要だなと感じました。



●談義は富山県の柿沢商工労働部次長からのご挨拶から始まり、終始リラックスしたムードで開催されました。



柿沢県商工労働部次長

皆様とお会いし、交流できる機会はとても貴重です。企業の皆様の声をお聞きし、共に富山を盛り上げていきたいです。

●中島閘門での休憩の後、高木会頭の「皆さん、こんばんは！」という明るい挨拶で始まった後半。高木会頭から若手経営者に向けてメッセージが送られました。



高木会頭

日頃、書物や又聞きした情報で、単純に物事を判断したり決めつけてしまったりすることがあります。しかし真実を知るためにはやはり現物を見ること、そして実際に経験をすること大切。どこの企業においても、また個人としても、直に経験して培う現場力が重要。さらに一期一会、一人ひとりの出会いを大切にすることが一番大事だと私は思っています。



●富山市の大場部長からは参加者に常日頃の市政に対する協力に感謝と、市政に対する熱き思いを語られ、また、未来を背負う青年部会員に期待をこめたメッセージが送られました。

●昨年の「ビア電」談義から今回も連続して出席している青年部会員は、前回の「ビア電」談義にて大津賀副会頭から「青年部会員にはこのような交流会にどんどん出席してほしい。顔の繋がりが何より大切」との言葉を頂いていました。



大津賀副会頭

また、お会いできましたね。このような出会いを大切にしたいです。



青年部・中川氏

こういった場を重ねるごとに覚えていただき、実際に繋がりが出来るのだという実感が持てました。

●翠田副会頭は日頃この運河沿いを散歩コースにしておられるそうです。



翠田副会頭

こんないい観光資源があるのに富山はアピールが上手くないよね。もっとアピールしないとイケない。



青年部・真木氏

これからは全国の仲間が来富した際には、ぜひこの観光船に乗ってもらい富山をアピールしたい。



▲青年部・村家会長が挨拶



日本商工会議所青年部出向時に全国各所を訪れたことで、たくさんの仲間を作ることができました。

これからは君たち若い世代が青年部で培った経験とたくさんの仲間との絆で牽引してほしい。



青年部・真木氏



翠田副会頭

